

県、F15飛行停止要求

米軍・国に落下事故「住民に不安」

【嘉手納】米空軍嘉手納基地所属のF15戦闘機の風防ガラスが落下した事故で、県の親川達男基地防災統括監は5日、同基地や沖縄防衛局などを訪れ、事故原因が究明されるまでのF15の飛行停止や再発防止の徹底、原因の究明と早急な公表を求めた。

(2・27面に関連)

風防ガラスはアクリル製で重さ1113～1633gあり、要請書では「一歩間違

えれば人命、財産にかかわる重大事故につながりかねない。住民に大きな不安を与え、極めて遺憾」と厳しく指摘した。

親川氏によると、対応した同基地第18航空団のジョナサン・ライリー広報局長は「今回のような事故はまれで、米軍としても遺憾」とした上で、「県民が不安に思っていることは受け止

めている」と述べたという。F15は事故機を含む所属

全機の飛行を停止し、米軍側が安全調査委員会を立ち上げ、事故原因の調査に当たっていると明らかにした。飛行停止期間や調査期間は不明。

沖縄防衛局では田中利則企画部長が、同局や防衛省から米軍側へ再発防止などについて申し入れたことを説明した。また、在沖米総領事館のマット・オカーナ

ー主席領事、外務省沖縄事務所

要請書を手渡した。

嘉手納議会 抗議決議へ

【嘉手納】F15戦闘機の風防ガラス落下事故で、嘉手納町議会(徳里直樹議長)は5日、基地対策特別委員

会を開き、事故に対する抗議決議案を6日開会の3月定例会本会議に提案することを決めた。全会一致で可決される見通し。また、2日に同基地へ着陸した普天間飛行場所属のオスプレイについても、飛来禁止と原因究明と公表を求める抗議決議案も提出する。